

# 手作りのもてなしだから、 温かいんだと思うん ですよ。



ご利用ください 町内の施設

フオーレなかかわね茶茗館の西村さんは、今日もお茶の接待に使う「一煎茶パック」や、来館者に渡すお土産の「におい袋」をせっせと作っている。

それほど暇なわけではない。お話を聞いている最中にも、ちよくちよくお客さんが訪れ、慌てて接待に出掛けていく。少しすると戻ってきて、また小さなお土産を作り始める。

「こういうのは全部手作り。自分でやればお金はからないし、中身も茶ガラだしね。それでもお客さんが喜んでくれるから。手間はかかるけど、売ってるものよりいいでしょ」

封をする前のその「におい袋」を手にとってみる。ほのかにお茶のにおいがした。大きさにして5センチに満たないその袋からは、西村さんのもてなしの心があふれ出ているのかもしれない。





手作りの「におい袋」



また、西村さんは「町民のみなさんにこそ来館していただき、このお茶を味わってもらいたいです」と話す。

「でも、家にいればいつでもお茶が飲めるんだから、わざわざここまで来ないのでは?との問いかけに、

「お茶になじみ深いこの町の人たちだからこそ、お茶つて入れ方次第でこんなに味が変わるんだと知ってもらいたいのよ」とのご返事。

お話を聞いている間、その手が休まることはなかった。

川根本町では「もてなし」の心で、みなさんをお待ちしている施設がたくさんあります。

そのもてなしの形は「心の安らぎ」であつたり、「集い学ぶ場所の提供」であつたり、または「遊び体験のお手伝い」であつたりとさまざまです。

しかし、どの施設にも共通して言えるのは、町民のみなさんの利用が少なくてさみしい、ということ。

観光施設も、少し視点を変えれば地域の憩いの場です。

「たまにはいつもと違う場所で寄り合いをしてみませんか。」

「仕事帰りにちよつと温泉にでも浸かっていきませんか。」

「写真を撮るのが好きな方なら『私の作品展』を開いてみませんか。」

町内全ての施設は、もっとみなさんに親しんでもらいたいのです。

こんな山あいの小さな町だからできること。それは、もてなしあふれる、ゆとりと憩いの生活環境の実現だと考えます。